

企業理念と沿革

当社の歴史は、1666年（寛文6年）徳川四代将軍家綱の時代までさかのぼります。

炭屋としての創業と、5年目にしての打ち刃物問屋への転業が、その後350年続く機械、工具、機器などのハードウェアの取り扱いの発端となった当社最初のイノベーションとなりました。以来、業界の先駆者としてイノベーションへの挑戦を続けています。

写真：江戸日本橋通油町（現在の日本橋大伝馬町・旧本社所在地）にあった炭屋江戸店

企業理念

誠実と信用

ユアサ商事グループは、地球環境との調和を基軸として、世界のいかなる国、地域においても双利共生の環境を重視し、企業活動を通じて、より人間らしい豊かな社会づくりに貢献します。ユアサ商事グループは、世界の多様な民族、宗教、文化、習慣、制度に対する認識と理解のうえに、公正かつ堅実・誠実な活動を通じて、信頼され認められる企業の確立に努めます。

進取と創造

ユアサ商事グループは、事業領域を弾力的かつ社会のニーズによつて的確に把握し、イノベーションを志向する先進企業集団の形成を目指します。また、優れた技術・製品の導入及びシステム、サービスの開発を行い、専門分野に精通した部門あるいはグループ企業を通じて、無駄のない合理的な方法によって、顧客の皆様に満足を提供します。

人間尊重

ユアサ商事グループは、社員の個性と権利を尊重するとともに、相互信頼と協調の精神に立脚した組織とルールのもとに、起業家精神と革新的な発想を追求し、実践できる職場環境の形成に注力します。社員は、各自の目標と責任を明確にし、成果を追求するとともに、事業活動において創造性を発揮することによって経営を分担します。会社は、活動の成果に対しては成果配分を徹底し、社員の貢献に応えます。



▶ 創業期（1666年）～ 今へと続く礎を築く

- 京都にて木炭商として創業
- 創業5年目にして打ち刃物問屋へ転業
- 江戸に進出
- 屋号「炭屋（すみや）」を制定

▶ 1900年～ 近代化に合わせた事業の多角化と基盤強化

- 日本初となる洋金物の国産化を実現
- 海外進出
- 会社設立（1919年）
- 株式上場（東証1部・大証1部）
- 「機械と住宅」のシステム商社として始動
- 第1回「グランドフェア」開催
- 湯浅商事とユアサ産業が合併、現商号「ユアサ商事」となる（1992年）

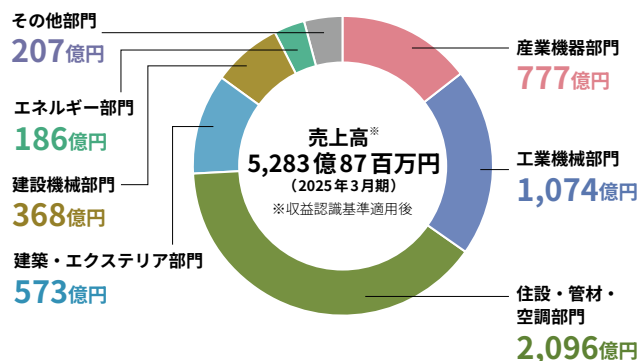
▶ 2000年～ 経済価値と社会価値の両立への挑戦

- 社会課題解決ビジネスへの挑戦
- サステナビリティ宣言策定
- 「つなぐ」複合専門商社グループへ
- 創業360周年（2026年）

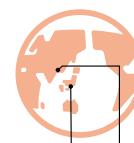
ユアサ商事の強み

総合力を発揮する 事業ポートフォリオ

セグメント別売上構成比



業界最大級の 取引先ネットワーク

ユアサ商事グループネットワーク
(2025年3月末現在)

国内

152拠点
(単体国内32拠点)

海外

11カ国
31拠点

国内グループ会社

24社

海外グループ会社

18社

イノベーションが 生まれる企業風土

「つなぐ」イノベーションから生まれた
当社グループオリジナル商品・サービス

約40件

新事業提案制度提案件数

2023年3月期

57件

2024年3月期

60件

2025年3月期

66件

健全な財務基盤と成長分野への積極的な投資

ユアサ商事グループの現在
(2025年3月期実績)

売上高

5,474億73百万円

※収益認識基準適用後:5,283億87百万円

経常利益

160億10百万円

ROE

9.7%

株主還元率

39.4%

中期経営計画「Growing Together 2026」における投資方針

投資余力ほか

株主還元

33%以上

P.9

2024～2026年累計
基礎的営業
キャッシュ・フロー

成長投資

50%以上

P.25

お取引先様を「つなぐ」



建材・エクステリアメーカーをつなぎ人々が憩う歩行空間を創造 「ウォーカブルなまちづくり」

国土交通省が推進する「居心地がよく、歩きたくなるまち」の実現に向けたプロジェクトに参画しています。当社が有する建材・エクステリアネットワークをつなぎ、ベンチやパーゴラ（東屋）、授乳室など様々なアイテムを提案。彩り豊かで魅力的な滞在空間の演出を通じ、次の時代のまちづくりに貢献していきます。



従業員とのつながり

企業風土のキーワード：「総合力」「チャレンジ」「コミュニケーション」



関東工業機械部
営業事務職
山根 あゆみ

タイのグランドフェアをきっかけに 国境を越える、新しい挑戦を

私は普段、社内にてお客様とお電話などでやりとりを行っています。今回、全社を挙げた取り組みであるタイのグランドフェアに参加することで、多くの方々が関わり展示会が作り上げられていると実感することができました。連日、様々な国の方が来てくださったり、「来年も実施してほしい」とお声をいただいたり、印象に残ることが多く、目標の来場者数も超えることができ嬉しく思います。多くの貴重な経験ができ、今後も語学学習や商品への興味を持ち続けて、同じような機会があったら参加したいと強く思いました。

インド市場で切り拓く、当社のソリューション提案

入社以来、インドの機械販売担当として、お客様のニーズ分析から最適な機器の提案、アフターサービスまで一貫して携わっています。現場に足を運び、対話を重ね信頼関係を築くことを大切にしています。入社後半年で生産ラインの効率を大幅に向上させる大型受注を複数獲得することができ、お客様から信頼されるアドバイザーとして、社内の技術チームと連携しながら課題解決に貢献できることに、大きなやりがいを感じています。これまでの成功を糧に、今後もユアサ商事だからこそできる革新的なソリューションを提供し、お客様と会社の発展に貢献していきます。



中部建築設備部
営業職
宇治田 辰郎

グローバルに活躍する未来への想いを タイのグランドフェアで再認識

今回タイのグランドフェアに参加し、ご来場いただいた皆様のほとんどが、出展メーカー様の各ブースを熱心に巡回している姿が印象的でした。また、実際に会場内でヒアリングを進めていくと、タイと日本とは市場特性が全く異なると感じました。現地のニーズを理解しタイミングを見据え、いち早く参入できる環境を整えるべきだと強く感じました。国内営業で培った知見を活かし、現地の最前線で当社の全社推進事業である海外事業拡大に貢献したい、という思いが一層強くなりました。



建機本部
営業事務職
力石 杏奈



総合力で「つなぐ」新商品開発によって モバイル型ホテル「コンパク」が誕生

モバイル型ホテル「コンパク」の立ち上げに際し、初めて企画会議に参加しました。内装デザインや備品など、女性目線で提案した意見が商品として具現化され、さらには、会議で飛び交っていたワードから連想した、「コンパク」というネーミングが採用されたことは、とても嬉しく思いました。当社グループ会社や多岐にわたる部門が関わり、それぞれの強みを活かして「つなぐ」イノベーションを発揮することで、ユアサ商事にしかできない商品開発ができたと感じています。今後はもっと積極的に商品開発に携わり、課題解決に取り組んでいきたいです。



YTI
General Manager
Barjinder Singh

BarjinderさんはYTIに入社してから、わずか半年間でYTIに大きな受注をもたらした方です。今後はナショナルスタッフ全体の取りまとめと受注サポートにも頑張ってもらい、ゆくゆくはYTIの経営を担う人物に成長していただきたいです。



YTI 営業職
小笠原 琢

統合報告書の位置づけ

財務・非財務情報の統合



財務情報

YUASA REPORT（事業報告書）、決算短信、Fact Book

非財務情報

会社案内
コーポレート・ガバナンス報告書、ESG データ

ユアサ商事Webサイト
<https://www.yuasa.co.jp/>



統合報告書発行に当たり

本統合報告書は、ユアサ商事グループ独自の強みを活かしつつ、将来に向かってどのように企業価値を向上させていくかについて、株主や投資家をはじめとした全ステークホルダーの皆様に向け、ストーリー性を持って分かりやすく伝えていくことを目的としています。

価値創造プロセスを起点に、2023年4月よりスタートした中期経営計画「Growing Together 2026」をはじめ、財務・非財務情報の両面から当社グループの中長期的な成長ストーリーをお伝えします。

今後もステークホルダーの皆様との対話に欠かせない重要なツールとして情報開示に努め、コミュニケーション強化を図っていきます。

発行日 2025年9月

代表取締役専務 経営管理部門統括 田中 謙一

目次

06. 「つながり」を創る

- 06 - トップメッセージ
- 10 - 価値創造プロセス
- 11 - ユアサ商事グループの主な事業領域
- 12 - サステナビリティ経営の推進・マテリアリティ

14. 「つながり」を強める・広げる

- 15 - 中期経営計画「Growing Together 2026」の概要
- 17 - ビジネス変革の全体像
- 18 - 事業本部長メッセージ
- 19 - 成長戦略について
- 20 - 特集① AI技術で検品作業を自動化する「F[ai]ND OUT」シリーズ
- 22 - 「つながりを広げる」取引先ネットワークの発展

23. 「つながり」を支える

- 24 - 経営管理部門統括メッセージ
- 26 - DX推進
- 27 - 環境
- 31 - 人材戦略
- 37 - 人権への取り組み
- 38 - 社会貢献
- 39 - 社外取締役 座談会
- 41 - 役員一覧
- 43 - コーポレート・ガバナンス

51. 「つながり」の成果

- 52 - コア事業
- 58 - 特集② 新市場への展開（介護・医療／食品／農業）
- 59 - 経営指標
- 60 - 非財務データ集
- 61 - ユアサ商事グループネットワーク
- 62 - 株式情報／会社概要

参考にしたガイドライン

- ・IFRS財団「統合報告フレームワーク」「ISSB」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス2.0」
- ・GRI「サステナビリティ・レポートニング・スタンダード」



報告対象範囲

原則、2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）を報告対象期間として、ユアサ商事と国内・国外のユアサ商事グループ各社の実績を掲載しています。

※組織体制や施策などについては、一部2026年3月期の情報も含みます

見通しに関する注意事項

本統合報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは、ユアサ商事グループの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の予測とは異なる可能性があります。